▲原田常務理事による乾杯

ASSOCIATION OF MUSICAL ELECTRONICS INDUSTRY
AMEI News
社団法人音楽電子事業協会
2003

MIDI規格誕生20周年記念特別号

誕生から20年、グローバルスタンダードとなったMIDIは楽器や電子機器における技術革新と、関係する業界の多様化の中、当初は予想しなかった分野へも応用範囲を広げている。

スタンダード（世界共通規格）としてのメリットを最大限に活かしつつクリエーターに新たな表現方法を提供するMIDI。今も事業現場で隆々と活用されるMIDI。20年を記念してMIDIの再認識をいろいろな形でアピール致します。

主な20周年記念行事

1）過去･現在･未来の様々なMIDIに関与する方々による記念パーティー（H15年5月13日・写真上）
2）MIDIの歴史と今後の活用についてのシンポジューム（H15年7月3日）
3）H15年10月23日～26日に横浜パシフィコで開催される楽器フェアの中で、「MIDI Museum」「Macintosh MIDI &Audio Solution」を展開。
4）コンシューマーへの「MIDIガイドブック」を発刊・配布予定。
5）20年に亘るMIDI規格等の整理集大成。

ご挨拶：MIDI規格誕生20年を迎えて

●檀　克義　社団法人音楽電子事業協会 会長
ローランド株式会社 代表取締役社長

会員の皆様には、ますますご健勝の事とお慶び申し上げます。

当協会もお陰様をもちまして八年目を迎えることとなりました。

これも一重に、会員各位をはじめ経済産業省、文化庁、各関連団体の温かいご支援ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

さて、高度成長から低成長デフレ時代という、昨今の大きな経済・社会の変化は、我々のビジネスに大きな影響を与えています。また、技術、環境、様々な規格、デジタル時代の著作権等について、多くの変化や問題が発生していることもご存知の通りです。当協会は、製造メーカーからコンテンツビジネス、販売業、専門学校等と、大変幅広い異業種の方々からなる団体でありますが、それら諸問題の解決と迅速な対応のために、会員各社のご協力はもちろんのこと、それぞれの課題に取り組む委員会や部会への積極的な参加をあらためてお願い申し上げる所存です。

本年はMIDI規格誕生20周年という記念すべき年であります。二十年前のMIDI規格誕生の時を顧みると、当初はこの提案がなかなか理解して頂けず、立案自体が難しいとの否定的な意見もありました。しかしそのような懸念の中、MIDIの可能性に強く賛同した楽器メーカー数社がお互いの機器を接続してテストを重ね、規格を統一するという目標を達成いたしました。

その後、世界に通用する規格として認められるまでには長い年月がかかりましたが、今日ではコンピュータミュージック、通信カラオケ、モバイルホーン等、MIDI規格が意識される事なく、多くの人々の日常生活に普及するまでになりました。今や世界中の規格として認められたMIDIですが、これも20年にわたる会員皆様の多大な努力があってこそと、あらためて深く感謝いたします。

また、平成11年よりMIDI規格をより多くの人々に普及拡大するため、MIDI検定制度を発足させました。すでに受験者総数は一万人を超え、380余名の方が音楽製作現場での実務が可能なレベル2級合格を果たされています。今後これら合格者に活躍の場を提供してゆく事も、当協会の重要な課題のひとつと言えるでしょう。またこの検定制度は、新たに中国でもスタートを切る予定で、ますます世界のMIDIとして発展していくことが期待されます。

本年のMIDI規格誕生20周年に当たり、当協会では「講演会」並びに「楽器フェア」における様々なイベントを企画しております。ぜひ皆様の積極的なご参加をいただければと思います。

今後とも、MIDIの普及のために、また「音楽電子事業協会」の発展のために、益々のご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成15年5月13日
総会と記念パーティー

▲第7回通常総会会長挨拶

▲保志副会長より梯顧問、日吉顧問、和智副会長に感謝状贈呈

▲経済産業省文化情報産業課 片岡宏一郎様ご挨拶

▲全国楽器小売商組合連合会 山野会長ご挨拶

▲文化庁長官官房著作権課 溝口浩和様ご挨拶

MIDIの可能性

●小林　洋介　経済産業省 文化情報関連産業課

本年は、MIDI規格誕生20年にあたります。この規格は、長年にわたり着実に改良が積み重ねられた結果、今日音楽の電子規格においてここまで重要な地位を占めるに至ったものであり、関係者の方々の今日までの御努力に対し、敬意を表します。

今日、情報関連分野における急速な技術革新に伴い、ネットワーク環境の高度化、大容量メディアの出現など情報関連機器やインフラは着実に発展しており、いわゆる「デジタル革命」が急速なスピードで進展しているところです。特に音楽分野においては、MP3技術等、圧縮技術を利用したネットワーク音楽配信の相次ぐ事業化や、着メロのようなモバイル分野での音楽配信等、日常生活に密接したサービスが非常に早いスピードで普及しています。

政府では、IT戦略本部を中心として、昨年度より『e-Japan重点計画－2002』を策定し、実施してまいりました。この計画中では、世界最高水準の高度情報通信ネットワークインフラの形成、電子商取引等の促進、高度情報通信ネットワークの安全性及び信頼性の確保等について、その課題と方向性、主要施策についての取組が謳われています。また、これらの動きをさらに加速していくべく、現在政府では『e-Japan重点計画－2003』の策定に向けた作業を行っております。

このような中で、誕生より20年たった現在、MIDI規格はカラオケや携帯電話の着信メロディー、映画、テレビ番組やラジオ番組などの制作現場ではなくてはならないものとなりました。また、社団法人音楽電子事業協会におかれては、平成8年4月の設立以来、MIDIのJIS規格化と普及、電子電気楽器及び機器の安全、環境保全の調査研究、電子音楽技術に関する講演会やセミナーの開催など、これまでに幅広い事業活動を展開されてきており、音楽分野におけるデジタルコンテンツ市場の振興に大いに貢献されておられます。

一方、通信ネットワーク等による音楽配信は益々多岐複雑化しており、その著作権の適正な権利処理が事業者、権利者の両サイドより急務となっていることから、音楽電子事業協会ではネットワークによる音楽配信の著作権問題にも力を入れていかれるとも聞いており、経済産業省としましても非常に期待しているところです。

今後とも、音楽電子事業協会を中心として、これまで20年にわたり蓄積されてきたMIDI規格をより一層発展させていくことにより、音楽分野を中心とした多様なデジタルコンテンツがこれまで以上に広く世の中に普及されることを期待しております。

記念パーティースナップ

米国MMA TomWhite会長ご挨拶

パーティーご参会の皆様

パーティーご参会の皆様

佐々木運営委員長閉会のご挨拶

ご祝辞：MIDI規格誕生20年を迎えて

●伊藤　修二　全国楽器協会 会長
ヤマハ株式会社 代表取締役社長

AMEIが育ててこられたMIDI規格が誕生20周年を迎えましたことを心よりお祝い申しあげます。

1980年代は、電子楽器がデジタルの時代に移行し、仕様面でも音楽表現力の面でも大きく進化を遂げつつある時代でした。

その時期における、「楽器と楽器」、また「楽器とコンピューター」を繋ぐ統一規格の確立の仕事は楽器の技術革新の中で実に大きな意味を持つプロジェクトであったといえましょう。

各社の多大なご尽力により、当時メーカー各社が別々に進めてきた独自規格を乗り越えて、新たに業界共通プロトコルとしてMIDI規格が設定されたわけですが、その後のMIDIの普及推進により、電子楽器を演奏されるお客様はそれまでは考えられなかった大きなメリットを得ることが可能となったのです。

MIDI規格のおかげで、演奏者は多くの電子楽器を同時に使用することができ、より高度な音楽表現が可能となりました。

これにより電子楽器の魅力がさらに高まり、音楽制作市場を含めて、マーケットの拡大に大きく繋がったことは皆様ご存知のとおりです。スタンダードとなったMIDIが楽器ビジネス全体の発展に与えた役割は計り知れないものがあると思います。

その後、共通音源規格General MIDIの制定等、さらなるMIDI関連規格の整備が進み今日に至っておりますが、現在までMIDIを維持発展させる努力がなされたおかげで、楽器業界はお客様が求める理想の楽器を開発・販売する方向へ進むことができたということを確信しております。

今後は「電子楽器ハードウェアとPCの共存」という局面におけるMIDI規格維持・発展に加え、音楽配信や通信カラオケ等に代表される新しいビジネスの世界も含めて、MIDIが事業発展に一層貢献してくれることを期待しております。

最後に今後の電子楽器事業の更なる繁栄を祈念して、MIDI規格誕生20周年に対する全国楽器協会からのお祝いの言葉とさせていただきます。

ご祝辞：MIDI規格誕生20周年に寄せて

●山野　政光　全国楽器小売商組合連合会 会長
山野楽器株式会社 代表取締役会長

MIDI規格誕生20周年、心よりお慶び申し上げます。

楽器小売店といたしまして、音楽電子事業協会との最初の関わりは、電気楽器をお客様に販売するに際しての、安全性の問題への取り組みであったと記憶しています。約35年前に第一次エレキブームが起こり、その後グループサウンドの隆盛に伴い販売数は格段に伸びてまいりました。しかしながら、電気楽器の安全基準が不明確なこともあり、様々な問題が起こっていたようです。楽器小売店としては、販売した商品の不良は店としての信用を失い、またお客様の信頼を大きく裏切るものでございます。

そんな不安の中、電化製品の安全・保全基準の設定に伴い、音楽電子事業協会の前身である全国電子楽器協議会が中心となり、電気用品取締法の解釈から独自の電気・電子楽器安全基準が設定され、また電気用品取締法自主依頼試験の補助制度が設けられ、各メーカー及び輸入業者が取扱い製品を自主的に安全検定ができるようになりました。その結果、私共が安心して自信を持って市場に商品を供給することができるようになったわけです。従いまして、この基準が現在では我々の扱い商品においての安全基準と云うことになり、電気・電子楽器の市場における信頼性の向上に大きく貢献しております。

現在は当初我々が予想していた以上の情報化社会となっておりますが、そのような環境下では情報をできるだけ共有化することが全体のレベルをより向上させてくれることになると考えます。世界的には安全基準がそれぞれ異なると聞きますが、それらの情報をいち早く研究・提供して頂くことにより、今後も業界としてのリスク軽減に尽力して頂きたいと思います。

誕生20周年を迎えたMIDI規格は、当初複数の電子楽器どうしを接続して演奏すると、信号が統一されていない為に正常に機能しなかったのを、その信号を統一させる規格として制定され、コンピュータとは無関係な規格でありましたが、現在ではコンピュータの発展・普及に伴い、電子楽器とコンピュータとの信号統一化が実現し、デスクトップミュージックが音楽の一つの演奏ジャンルとして確立されるまでに至りました。MIDI規格はその普及により、一人のお客様に複数の電子楽器を購入して頂けるようになり、楽器業界の発展に大いに寄与してくれました。更に、現在では通信カラオケの演奏データ送信、携帯電話の着信メロディの送受信、テーマパークなどの自動演奏等、楽器分野を離れた場所においても活用されており、音楽文化やIT技術の発展にも大いに貢献しております。また、MIDI規格を広く一般に普及させてMIDIを活用できる人材の創出を図ることを目的としてMIDI検定試験を実施し、合格者は延べ8000人と聞いておりますが、これは将来のプランの中にMIDI規格を重要な位置においている人が多い証明にもなり、デジタルミュージック制作への関心の高さが伺えます。今後も、MIDI規格は更に進化するものと思いますが、ますますその普及・啓蒙にご尽力されることを願って止みません。

今回は、安全基準とMIDI規格に触れさせて頂きましたが、貴協会の全ての活動が産業と社会の発展に貢献するものであると確信しております。

今後の貴協会のますますのご発展をご期待申し上げます。

技　術　音　痴

●保志　忠彦　社団法人音楽電子事業協会 副会長
株式会社第一興商 代表取締役会長

今にして思うと、私とMIDIとの最初の出会いは昭和六十年（1985年）早春に始まったらしい。当時、当社の技術部長として居た塩谷慶一氏と私とを加えて当社の社員五名と、その当時関東電子の子会社だったロジテックと言う会社の長野県の伊那工場で、今で言う通信カラオケのプレゼンテーションを受けたのである。その当時の業務用カラオケ業界の状況は、まだ20センチ版レーザーディスクの60枚オートチェンジャーの機械が世に出たばかりで、レーザーディスクもVHDもこれからと言う時代でした。その20センチ版の時代も永続きせず、すぐ30センチ版全盛期時代が永く続いたわけです。当社の本社がまだ中野に在った時代ですから昭和六十年頃だったと思いますが、私が出張で岡山市へ行った折、岡山営業所の所長が社長面白いものが有るから自分と一緒に見てくれと私に言って連れて行って見た物が、カラオケボックスの一号と後に業界に記録されるわけです。当時はまだ今で言う所の郊外店でしたが、雨後の竹の子とでも言うのでしょうか、それがあっと言う間に全国に広がって行って郊外店の外装部分に使用するコンテナまで払底してしまいました。そこで大同鋼板に頼んで人が10人も入れば身動きが出来なくなる様な小型のボックスを五千個造ってもらいそれも完売してしまいました。今その一個が会社の前に建っていて社員の人達が歌の練習用に使っているようです。一方都市型は当社の札幌に造ったすすきの店が多分一番早かったと思います。その間カラオケの機械オートチェンジャーであれば何でも売れていきました。とにかく商品が飛ぶように売れて行って商品が無い状態が続きましたので平成四年（1992年）三月にヤマハに対して通信カラオケDAMを発注し平成六年（1994年）四月二十一日の発売となったわけです。早い時期にプレゼンテーションを受けていたのですから私が技術に詳しければもう少し早く通信カラオケをやっていたのでしょうが、遅かったことが逆に先行他社より付加価値を着ける事が出来たのだと思います。今では着メロもMIDIの御世話に成って居ます。AMEIの会員や賛助会員の内には、大きな会社も小さな会社も当然有ると思います。時代は技術革新を求めて居ます。例えば世間は若いフリーターが多いと嘆いています。しかし私にはそれはチャンスを持っている人にしか見えません。今から十年前着メロなど誰が考え付いたでしょうか。それどころか携帯電話のこれだけの普及すら思い付かなかったと思います。情報と言うものに耳をそば立てて居れば誰にでも同じようにチャンスは有ると思います。ジェームス・ワットが蒸気機関を発明し、そこからいろいろな産業が育って産業革命をおこした様に今はそんな時代だと思います。若い起業家の輩出こそ今日の閉塞感を打ち破ると思います。皆様の幸運をお祈り申し上げます。

MIDI活用の拡大を

●篤田　勝宏　社団法人音楽電子事業協会 副会長
ヤマハ株式会社 執行役員PA・DMI事業部長

この度MIDI規格誕生20周年を迎え、MIDIの普及と応用分野拡大に関わらせていただいた音楽電子事業協会の副会長として、この20年の節目に立ち会えました幸運を大いに喜んでおります。

MIDI規格がスタートして早20年。音楽電子事業協会AMEIの歴史はまだ7年ですので、MIDIのほうが大先輩ということになります。（とはいえ、AMEIの前身のひとつである「MIDI規格協議会」が、長期にわたりMIDI規格の普及に深く関わってきたことは皆様よくご存知のとおりです。）

この20年において、MIDIは、電子楽器の世界のみならず、音楽制作、またマルチメディアやカラオケなどのさまざまな分野で大きな役割を果たしてきました。AMEIでは、MIDIに関わる多くの専門委員会、部会の運営を始め、JASRACとの協議会運営、MIDI関連専門書出版、MIDI Worldの開催や1999年より始めたMIDI検定試験の運営などに注力し、大きな成果を出しております。これもひとえに関係諸氏の熱意あふれるご指導によるものと感謝申しあげます。

MIDIの歴史は、楽器のデジタル化の歴史、また、音楽とさまざまな異分野との融合の歴史であると言えましょう。AMEI主催によりますMIDI誕生20周年記念シンポジウムでも、「今後期待されるMIDIの活用事例」ということで興味深い事例がたくさん紹介されます。

この20年、MIDIの基礎確立に尽力された多くの方々のご苦労に心から敬意を表しますとともに、皆様が果たしてこられた役割を大変誇りに思います。

今後さらに多くの分野においてMIDIが活用されていくことを祈念するとともに、音楽電子事業協会の会員の皆様のますますのご発展をお祈り致します。

MIDI夢想

●加藤　孟　社団法人音楽電子事業協会 副会長
株式会社コルグ 代表取締役会長

新しい技術の登場やその応用は、予想よりはるかに早いと感じることもあり、逆に遅々として進まないと思うこともあります。

通信衛星が飛び交うようになったのはいつ頃だったのでしょうか。そのころ知り合いのミュージシャンや出入り業者とよくたわいもない雑談をしたものです。

『2、30年後には、音楽の世界も通信衛星を利用するのが当たり前になりますね。そうすれば東京＝ニューヨーク＝ロンドンと離れた場所にいても気軽にジャムセッションができるようになり、ミュージシャンの仕事も音楽の楽しみかたも変わるでしょうね』

『でも地表から静止衛星まで最短距離でも3万6000キロメートルもあり、電波もかなり遅れるから、セッションできるだろうか』

『確かに時間の遅れを取り戻す方法はタイムマシンでも作らない限り出来そうにないですね。でもその頃には、逆に時間の遅れを積極的に利用した音楽が盛んになっているかも知れませんよ』・・・・

その後MIDIが生まれ、電子楽器間あるいは電子楽器とコンピュータとの接続も容易になり、音楽の通信環境は格段と身近になりました。

家庭ではブロードバンドによるインターネット接続も珍しいことではなくなりました。それとは知らぬうちに、誰かの創ったＭＩＤＩデータをパソコン内部の電子楽器の演奏で聴いている日常でもあります。

そして通信衛星は衝突の危険性があるほどのラッシュ状態になり、多くのミュージシャンはコンピュータを自在に操り、映像を含めてジャムセッションを実現するための材料はほぼ出揃った感があります。

技術環境は予想より早く到来したようです。

しかしあの時夢想したジャムセッションは未だ聴くことが出来ません。あれから新しいジャンルの音楽が次々と生まれ、私の好きな音楽ジャンルのＣＤは店の片隅に追いやられてしまいました。

技術は使われてこそ価値があるものです。いつの時代も使い方を考えるのは人間であり、技術そのものは決して答を出してくれないという事でしょうか。

MIDI規格誕生20周年によせて

●原田　永幸　社団法人音楽電子事業協会 常務理事
アップルコンピュータ株式会社 代表取締役社長

このたびは、MIDI規格誕生20周年をお祝い申し上げますと共に、これまでMIDI規格の普及、啓蒙にご尽力されて来られた皆さま方に心からお慶び申し上げる次第でございます。

MIDIの日本における発展の歴史は、そのまま音楽業界のデジタル化成功の歩みであると云えるでしょう。さらにMIDIは、音楽がコンピュータをハブとして、映像、通信、出版と融合するきっかけを作り、マルチメディアという概念を実現した目に見えない功労者と云えるのではないでしょうか。

私どもアップルコンピュータも、MIDIの恩恵を少なからずこうむっています。

今や「音楽制作といえばMac」、「プロフェッショナルのスタンダード」と業界で云われるまでとなっていますが、これも20年前のMIDIの誕生なかりせば、と痛切に感じております。

すなわち、音楽とコンピュータの融合をなしとげる橋渡し役であるMIDI規格なしでは、今日のようなユーザフレンドリーな音楽ソリューションはありえなかったのではないかと思います。

アップルコンピュータでは、これからより一層音楽ソリューションを豊かにしていくべく、MIDIやオーディオをさらに重要視した基盤も築いていこうとしています。

Mac OS Xにあらかじめ用意されているCore MIDIやCore Audioといった高品位の規格もその一例といえます。また昨年は、プロフェッショナル向けMIDI/オーディオシーケンスソフトウェア「Logic」で知られるEMAGICを買収致しましたが、これらの事象だけをみても、音楽ソリューションのためのプラットフォームづくりを着々と進めていることがおわかりいただけると思います。

世の中には「運命的な出会い」というものがありますが、そのためにはまず、「運命的な誕生」がなくてはなりません。20年前に産声を上げたMIDIと呼応するように、同じく20年前、私どもアップルコンピュータも東京赤坂に初めてのオフィスを開設し、日本での業務を開始致しました。

広い空の下で、同じ時期にこの世に生を受け、やがて運命的な出会いを経て、次々と実りある形を産んで行くふたつの時代の申し子。

この素晴らしい偶然をますます意義深いものとするべく、また電子音楽事業の発展に寄与していけるよう、MIDI技術者育成など、これからも微力ながらお手伝いをさせていただきたく思っております。

協会ならびにMIDI規格の、今後ますますの発展と隆昌を祈念致しております。

MIDI誕生とその功績

●梯　郁太郎　社団法人音楽電子事業協会 顧問
ローランド株式会社 特別顧問

今、規格制定からの20年間を振り返ってみると、MIDIはその初期に想像した以上の発展を遂げてきました。その背景には、業界の共通規格として1982年に産声を上げたMIDIのスタンダード化とその定着に尽力した国内外の数多くのメーカーや関係団体によるサポートがあり、その協力なしには、現在のようにMIDIが市場に浸透することはなかったと思います。各国にはそれぞれ伝統ある独自の音楽文化を持つことによる保守的な面がありますが、そこで生み出された音楽は国境を越えるインターナショナル性を持ち、その中で電子楽器はテクノロジーの進歩と共に日々発展を続けています。「伝統」と「インターナショナル性」と「スピード」。これらとバランスよく付き合いながら、MIDIは着実に世界のスタンダードとして実績を積み重ねてきました。

音楽表現の可能性が広がったことで新しいパフォーマンスの手法が生まれ、楽器の形態も変化を始めています。有線から無線へ、アナログからデジタルへ、パラレルからシリアルへという変化は、それぞれが掛け算効果を生み、技術分野に進化と発展をもたらしています。そこでは実現化のための方法論も複雑に絡み合うため、時には混乱も起きますが、色々な議論が重ねられた結果、新しいビジネスが生まれ、技術の次の到達目標が見えてきました。

当初は楽器メーカーが主体であったAMEI会員の顔ぶれは、MIDIが人々の生活環境に浸透するとともに、ソフトウェア、コンピュータ、ネットワーク通信、コンテンツ制作、教育など多岐に亘る業界のメンバーが加わり、現在では非常に幅広い構成となっています。そもそもMIDIは、電子楽器を使った音楽表現をリアルタイムで交信することを目標にして出発しましたので、人間の感性を伝えるのに適したこのフォーマットが、音の世界だけではなく、映像（視覚）や通信（コミュニケーション）の分野にも応用の広がりを見せるのは、当然の流れだと思います。21世紀に入った現在、デジタルは精度を上げてアナログに限りなく近づいています。電子楽器の音楽表現に関しても、初期に議論されたアコースティック楽器との違いに起因する問題にはかなりの部分で解決が見られてきました。のみならず、今、私達の目の前にはアナログ時代には不可能だった音楽表現を手に入れられる可能性が広がっているのです。その中でMIDIのコンセプトが大きく貢献することを、私は確信しています。

皆が共有できるスタンダードの存在がいかに大切かを教えてくれたのがMIDIでした。この点で、MIDIは、人が感性の発露として作った音楽作品を自分以外の他者に伝えるための手段として、記譜法に次ぐ大きな功績を残したのではないかと思っています。これからもMIDIが進化と発展を続けていくことは間違いありません。

MIDI規格誕生20周年によせて

●佐々木　隆一　社団法人音楽電子事業協会 運営委員長・著作権ソフト委員長
株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピー会長

MIDI規格誕生から早くも20年が経過しましたが、MIDI規格の本格的普及がもたらした意味は大変大きく、日本における電子楽器産業の発展に貢献するとともに、IT産業発展にも非常に大きな影響を与えることになり、当初関係者が予見することができない程の展開と広がりを実現しました。

世界的にもすばらしい規格であるMIDIは業界のキーマンたちが利害を乗り越えて結集し、成長と発展に協力してきた奇跡の賜物であると思います。

MIDIは当初電子楽器間のインターフェースとしてスタートしましたが、電子楽器及び演奏データやDTMシステム＆データ、ネットワーク関連等に応用が広がるとともにソフト関係者からはMIDIの可能性を広げるためにはソフト分野（演奏データ等）を発展させることがきわめて重要であるとの認識が急速に広がりました。

ITにおいてはハードとソフトはまさに車の両輪で、どちらか一方だけでは前進しないわけです。すぐに多くの関係者が集まりAMEIの母体のひとつでもある日本電子音楽ソフトウエア協会（JEMSA）が設立され、MIDI規格、MIDI機器発展のため電子音楽情報分野やコンピューターミュージック制作などMIDI市場拡大のための研究や情報交換、JASRACとの音楽著作権使用に関わるルール制定や使用料率交渉などの具体的活動がスタートしたわけです。

これらの業界活動の活性化がMIDIの規格としての骨格を形成するとともに、電子楽器用演奏データ、BGM演奏情報関係、業務用通信カラオケ、エンタティメント機器制御、着信メロディ、ロボットなどまさに現代社会になくてはならないほど重要な規格の一つに成長したわけです。

私自身とMIDIの関わりを少々述べさせていただきますと、あるとき親しい楽器メーカーの方に浜松工場によばれ、初めてのMIDI搭載デジタルシンセサイザーのプロトタイプを見せていただきました。生まれて初めて耳にするデジタルサウンドの素晴らしさとMIDIの魅力に取り付かれ即座に演奏ソフト（演奏データ）とインターフェースの開発を決めました。

世界初のMIDI演奏ソフトを市場に出すことを決定しまして、まだ当時は規模の小さかったパソコンフェアーで発表したところ、お客様はデジタルシンセサイザーの素晴らしさに惹かれ、この楽器は何処で買えるのかという問い合わせが殺到し、数千枚のシンセサイザーパンフレットを配布させていただきましたが、肝心のソフトはさっぱり売れませんでした。

その後MIDIソフト普及母体となるJEMSAの設立や運営にかかわることになり、多くの問題に直面することになりました。

その結果ハード、規格、ソフト三位一体の組織にしなければ本格的なMIDIの発展は困難であるとの考えに至り、多くの先輩や同志とともにAMEIの設立に奔走したことが昨日のように思われます。

AMEI設立後の更なるMIDIの発展は会員の皆様もご存知のとおりですが、特に会員各位にご報告しなければならないことがあります。

わが国では世界最先端のIT国家の実現を目指して「e-japan戦略大綱」が制定され、具体的には内閣総理大臣を本部長とする知的財産戦略本部が設置されましたが、このような政府のIT戦略行政において、日本のデジタルコンテンツ産業の成功例として、着信メロディ配信事業が常に引用されます。

ご承知のように携帯電話の着信メロディ配信事業は事業開始4年という短期間で市場規模850億円という世界でも唯一といっていいほどの成功を収めたわけですが、これはまさしくMIDIなのです。

AMEIはこれからもMIDIの普及と市場拡大の活動母体となって、さらに応用範囲を広げMIDIの活用が進化し、再びMIDI30周年を多くの先輩や仲間とともに迎えることが出来れば、業界にとっても私自身にとってもMIDIと出会えたことは最高の宝物となるのではないでしょうか。

20th Anniversary of MIDI Standard

●MR. Tom White President/CEO, MMA

20 years ago I was working in a music store selling synthesizers to professional musicians in Hollywood. At night I played synthesizers professionally, but I did not use MIDI. I connected my synthesizers via the CV & Gate ports. I remember shoving a book of matches between two keys, to make one note sustain while I played another keyboard.

But I could see that MIDI was going to make a lot of keyboard players happy.

Two years later I took out some advertisements in computer magazines, and started selling CZ-101's and music software to people all over the USA who had computers and wanted to make music. Then, in 1990 I went to work for Roland US, to help develop their computer-music business. That same year Microsoft released their Multimedia Extensions to Windows, and I joined the MMA Board of Directors to become an advocate for the MIDI industry.

I didn't have much to do with how MIDI developed from 1983 to 1990. But I can tell you that the past 13 years have been both exciting and very challenging. As President of the MMA it has been my job, working with AMEI in Japan, and all the manufacturers outside of Japan, to establish order in the development of new MIDI messages and related Specifications. Without order, there would be many flavors of MIDI, and consumers and manufacturers would suffer from the lack of compatibility among MIDI products.

Today, we have very good support for MIDI in the computer industry, from both Apple and Microsoft. These companies understand the need to support MIDI industry standards, because computers with MIDI and audio software are the major tools used by professional composers and arrangers and recording artists today. And we have support for MIDI in MPEG-4, IEEE-1394, and 3GPP standards, due to the joint efforts of AMEI/MMA and our members. Soon, we will have both Internet (IETF) and Ethernet (IEEE) standards for transporting MIDI messages, so the uses of MIDI continue to grow.

In recent years, the applications for MIDI have expanded outside of the musical instrument business, especially in wireless communications. In this area, it has been a real challenge making sure that there are not too many flavors of MIDI, but working together, AMEI and MMA have made significant progress.

I believe the reason that MIDI is still in use, after 20 years, is because AMEI and MMA, working together, have encouraged development in a timely and orderly fashion. Someday there will be something that replaces MIDI, but not someday soon. So I think AMEI and MMA will need to keep working together, clearing the path for MIDI in new business areas, and making sure that consumers and manufacturers can benefit from the interoperability that MIDI provides.

Though I know it will be challenging, I look forward to another 20 years of MIDI development. And I am especially grateful to know that my friends at AMEI will be with me at every battle. On behalf of everyone, past and present, who has been involved with MIDI via the MMA, I want to congratulate AMEI on this 20th Anniversary of MIDI.

Thank you.

MIDI規格20周年に寄せて

20年前の私は、ハリウッドの楽器店でプロミュージシャンに楽器を売っていました。いつも夜は仕事として当時からシンセを演奏していました。然し、当時、私はMIDIを使っていませんでした。実際には私のシンセはCV gate portで接続していました。

当時は、2台のシンセを使う時には、1台は本を使って一方のシンセのキーをホールドしてもう1台を弾いたものです。然し、当時からこのMIDIが必ずや多くのキーボードプレーヤーに幸せをもたらすものになると思っていました。

2年ぐらい後でしょうか、PC雑誌の広告記事に惹かれて、当時のアメリカでPCを使って音楽を楽しむ人たちに向けてCZ-101と音楽ソフトを売り始めました。

そして、1990年でしたか、Roland USに入社し、そこでコンピューターミュージックビジネスのスタートの仕事をしました。同じ年に、たまたま、Microsoftが例のWindows用のマルチメディアエックステンションをレリースしたのと同じくして、私はMMAの役員になりMIDI業界に飛び込んだのでした。

私自身は、83年から90年までは特にMIDIの開発にはタッチしていませんでした。

然し、その後13年間は実にエキサイティングで且つやる気満々でした。

MMAの会長としての私は、言うまでもなく日本のAMEIとの共同作業でした。そして日本以外のエリアでMIDIの新たなメッセージの開発といった点でMIDIに関わってきました。その間、実際には色々なMIDIへの要求等、エンドユーザーとメーカーの双方から商品間のコンパティビリティについての不満に悩まされたのを忘れもしません。

ところが今日現在は、PC業界、AppleとMicrosoft双方からも充分サポートを受けているわけです。実際にはこれらの会社自体がこのMIDIのサポートの必要性を充分理解しています。何故なら、いうまでもありませんが、プロの作曲家、アレンジャー、そしてレコーディングアーティストなどが実際にMIDIとオーディオソフトを使っているからです。

ご存じの通り、MIDIはMPEG-4やIEEE-1394や3GPPの規格にもサポートされており、これらは何れもAMEIとMMAの相互協力で成り立っているのです。

もうすぐ、イーサネット上や、インターネット上でもこのMIDIメッセージが行きかうようになり、MIDIは更に発展し続けるのです。

つい最近は、MIDIは既に楽器業界の域を超えて応用されているのですが、特に顕著な例は無線通信機器分野です。

特に、この分野ではAMEIとMMAの協力により、統一した規格としてまとめることが出来、それによって大きな発展をとげて来ました。

私自身はいつも思うのですが、20年経った今でもMIDIが使われているのは実にAMEIとMMAがタイムリーに又手順良く共同作業をしているからにほかなりません。

とはいえ、近い将来いつの日かこのMIDIに代わるものが登場するかも知れません。

という訳で、今まで以上にAMEIとMMAが協調して、これから出てくる新しいビジネス分野での要望に応えていくことで、消費者とメーカーは同時にMIDIの持つ相互互換性を有効に享受できると信じています。

私自身もこの仕事は実に挑戦しがいのあるもので、さらにこの後、これからの新たな20年に大きな期待をよせています。

もう一つ特にこの場で申し上げたい点は、常にどんな戦場、困難な場面においてもAMEIの友人と一緒だという点が一番心強い限りです。

最後になりましたが、過去から現在までMMAと一緒に仕事をしてきた全ての仲間の皆さん、私はこの場をお借りして「MIDI 20年記念　おめでとう」といわせていただきます。

有難うございました。

20th anniversary of MIDI Standard

●MR. Bob Moog　Chief Technical Kahuna, Moog Music Inc.

I believe that MIDI is the most remarkable and significant development in the entire field of electronic music technology. With MIDI, musicians are able to encode a very wide range of expressive musical gestures using keyboards, alternate controllers, and computers, and then apply these gestures to an almost unlimited range of electronic tone generators. The encoding scheme specified by the original MIDI developers enables rich complex music to be transmitted, recorded, and processed as precise, rapidly-varying information that takes full advantage of contemporary computer technology.

I also believe that MIDI, as a world-wide technical standard, stands as an amazing example of international cooperation among businesses, technicians, and musicians. There are very few examples that demonstrate such cooperation. For instance, the software for my computer will not run on my wife's computer, and my engineering design files will not work with my fellow engineer's software. Compared with the confusion and inefficiency in the world of personal computers, the world of MIDI enables everybody's equipment to work together. I believe that this is appropriate for a musical standard. Just as music itself is a universal language that transcends national and cultural borders, MIDI is a shining example of what can be accomplished when people work together.

Explanation: It is common to have titles like CHIEF EXECUTIVE OFFICER (CEO), CHIEF FINANCIAL OFFICER (CFO) and CHIEF TECHNICAL OFFICER (CTO). In these titles, the word "officer" means that the person has an official, formal responsibility in managing the company.

My position in Moog Music, Inc is a little different. I design new products and make sure that the company's current products are up-to-date.

I have to figure out what musicians want to play, even before the musicians know that they want it. That takes a little magic.

I wait until I get an idea that I know is the right idea, and then I can do my work. So I call myself Moog Music's Chief Technical Kahuna. The word Kahuna comes from Hawaii. A Kahuna is a type of "medicine man" in traditional Hawaiian culture. He has magical powers, and can cure people with his thoughts and prayers. If you are not a Kahuna, you can't do these things. Similarly, I consider myself a 'technical kahuna' . I don't know where the magic comes from, but I really believe that I have access to information that only a few other people have access to.

MIDI規格20周年に寄せて

総ての電子音楽技術分野の中でMIDIは最も評価すべき、且つ顕著な産物だと確信しています。

ミュージシャンは非常に広いレンジの表現力豊かな音楽情報を、鍵盤楽器や各種コントローラー、更にパソコンを使って表現出来、然もこれらの総ての音楽表現情報を、殆んど制限なく総ての電子音源に伝えることが出来ます。

MIDI開発当初に決められたコード体系は、現代のコンピューター技術をフルに活かして出来ている為に非常に豊かな、複雑な音楽情報でさえも相互に伝達出来、それを録音し、然も後で更に細かく再加工も出来るのです。

世界統一規格としてのMIDIは、異なるビジネス分野、技術者、音楽家の間で確立した驚くべき例だと思います。

実際にはこのような国際間協力の例は稀に見るものです。例えば、私のパソコンのソフトは妻のハードでは動くとは限りませんし、ある技術者の設計データファイルは仲間の技術者のソフトで動くとは限りません。

今でも、パソコンの世界でのこの非効率性とそれに起因してもたらされる混乱とを比較すれば、MIDIの世界では誰の機械・機材を接続しても動く訳ですから、この事実こそが音楽標準として相応しいものだと信じて疑いません。

音楽それ自体も世界共通の言葉であり、国と文化の障壁を超えて伝わるものです。このように、MIDIは人々が協力して成し得た、光輝く好例です。

私のタイトル“Chief Technical Kafuna”について：通常はChief Executive Officer(CEO)とかChief Financial Officer(CFO),或いはChief Technical Officer(CTO)というのが一般的です。この場合のofficer”は、公的に会社の経営責任を有する人物です。

ムーグでの私の立場はこれとはやや異なります。私は新商品を設計し、或いは現行商品が常に市場に相応しいか否かを確認します。

例えば、ミュージシャンが自分で実際どうしたいのかを知る前に、私にはそのミュージシャンが何を弾きたいのかが解かるのです。

これは実はちょっとマジックめいています。自分がそれは正しいアイデアであるということが解るまで待ちます。そして初めてその仕事に取りかかります。このような経緯から私は自分自身をChief Technical Kahunaと呼びます。

このKahunaという言葉はハワイが起源です。Kahunaはハワイの伝統文化の中で“まじない師”のような人です。彼は魔法の力を持ち、人々を彼の思想と信念で癒します。これは貴方がKahunaでなければこんなことは出来ません。

この様に、私は自分自身を“技術のカフナ”と考えています。もちろんその魔法の力は何処から来るのか知りませんが、私は僅かな人しか見つけ得ない情報を得られる一人なのだと、本当に信じているのです。

社団法人 音楽電子事業協会の10年間の活動

1996年 4月

社団法人音楽電子事業協会が通商産業省（当時）所管の公益法人として認可されスタートした

公益法人設立許可書

- 1994年、MIDI規格協議会、全国電子楽器協議会、日本電子音楽ソフトウェア協会の3団体が合体し、音楽電子産業協会（任意団体）が設立された。
- 2年後、1996年4月１日通商産業大臣（当時）の認可を受け社団化され、社団法人音楽電子事業協会（通称AMEI）が公益法人として発足した。
- 1996年3月17日設立総会が、4月15日に設立記念パーティが開催された。
- 初代会長に日吉昭夫氏、2000年より現在まで会長は檀克義氏。

初代 日吉 昭夫会長

現在 檀 克義会長

1996年 5月

会報「AMEI　NEWS」創刊号発刊される 以後年3回のペースでAMEIの諸事業・諸情報を会員企業及び友好企業に伝えてきた

- 2003年4月号にて21号となった。

AMEI NEWS創刊号

1996年 10月

第1回「MIDI　WORLD」が池袋サンシャインシティにて、以後5年間、MIDIの普及を目的に、日本経済新聞社との共催で開催される

- 1996年と1997年の10月に「MIDI WORLD」の名称で池袋サンシャインシティで開催された。
- 1998年7月は「MIDI WORLD」の名称で、1999年7月、2000年7月は名称を「デジタル・ミュージックフェア」と変え、東京ビッグサイトで開催された。
- 2001年は楽器フェアにAMEIブースを出展。
- 各フェア、約10万人のコンシューマーの動員を達成。

1996年「MIDI WORLD」開会式

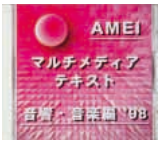
1999年「デジタルミュージックフェア」ビッグサイトにて

2000年「デジタルミュージックフェア」ビッグサイトにて

1997年 4月

AMEI版「マルチメディアテキスト　音楽・音響編」（初級編、上級編）がCD-ROMにて発行される

- マルチメディア推進委員会の企画推進による、マルチメディア制作者対象の解説書。
- 1999年まで3年にわたり、新情報が追加され、改訂版を出版した。



1998年版

1999年版

1997年 1月

第１回　海外視察団をNAMMショー視察及びMMA（MIDI　Manufacturers　Association）との交流を目的に実施

- 1997年より、計6回実施し、多くの情報交換がおこなわれ、MIDI規格のいくつかの新ＲＰが承認された。
（最終頁年表参照）

1997年米国MMAと合同会議

2001年米国MMAと合同会議

1997年 10月

「業務用通信カラオケによるJASRAC管理著作物利用に関する合意書」がAMEIとJASRACの間で締結された

- AMEIとJASRACのトップ会談が行われ、「業務用通信カラオケによるJASRAC管理著作物利用に関する合意書」が締結された。

JASRAC加戸理事長（当時）とAMEI日吉会長（当時）調印式

1998年

MIDIのJIS化（電子音楽標準化方針委員会）の原案を工業技術院に答申、翌1999年1月　日本規格協会より「電子楽器ディジタルインターフェース（MIDI）第1部総則、第2部プロトコル仕様」の2部が発刊された

- 1996年より2年にわたり、電子音楽標準化方針委員会で検討。

日本語版 MIDI JIS規格書

1998年1月 MIDI1.0規格書（日本語版·AMEI監修）がリットーミュージックより発刊

1998年4月 「これで解ったデジタルレコーディング」（AMEI監修）発刊

1998年1月発刊
MIDI1.0規格書

1998年4月発刊
「これで解ったデジタルレコーディング」

1999年1月 第1回 MIDI検定試験を実施 2002年度には第5回目となった

- 日本シンセサイザープログラマー協会の全面的支援を受け、MIDI認定制度研究委員会を中心に企画、専門学校等24会場にて実施（1999年）。
- 初年度は3級のみ、約3000人の応募、2000年より2級（筆記と実技）をスタート。
  また、「3級ガイドブック、2級ガイドブック、ミュージックメディア実務ノウハウ（2級実技試験のための）」が発刊された。
- 第2回の2000年より、島村楽器の全国の拠点が会場として参加、約80会場に広がった。
- 2002年度までに3級5回、2級4回、延べ約14,000名が受験。累計約8,000名が合格者。
- MIDI音楽制作の実務能力を持ち、充分実社会で通用する人材としての2級合格者が380名に達した。
- 2002年には4級がスタート、「ミュージックメディア入門」が発刊された。

▲▼1999年第1回MIDI
3級検定試験会場

▲▼2002年第3回MIDI
2級検定試験会場

1999年7月 General MIDI Level 2 規格が正式に発効した

- AMEIでは7月に、MMAで12月に承認され、ロゴも制定され、その後商標登録された。
- SMF with Lyricsも1997年にAMEIおよびMMAで承認され、ロゴも決まり、商標登録もされた。

GENERAL MIDI2

1999年10月 文化庁主導の著作権制定100年記念のAMEI協賛事業としてシンポジウム「21世紀のネットワーク社会と音楽著作権」を開催

- 第1部「インターネットにおける著作権処理の実務講座」
  佐々木隆一氏、
  野方英樹氏、
  飯島澄雄氏

実務講座　佐々木・野方・飯島の各講師

- 第2部「21世紀のアーティストとネットワーク社会での創作活動」
  坂本龍一氏、村上 龍氏の対談。
  作花文雄氏の「21世紀の著作権法」。

坂本 龍一氏と村上 龍氏対談

- 第3部 パネルディスカッション
  「音楽流通革命の課題と未来」
  瓜生宏司氏、高堂 学氏、鈴木孝夫氏、田中義雄氏、村井清二氏

パネルディスカッション

- 約300人の聴衆が集まった。

2000年7月 「MIDI スペシャル・トップ・フォーラム」（電子楽器の発展と未来）デジタルミュージック・フェア期間中、東京ビッグサイトにて開催

- 和智正忠氏「電子楽器の登場と音源開発」、梯郁太郎氏「MIDI誕生の背景とこれから」、冨田勲氏「シンセサイザー音楽」（音楽と音響、映像と音楽）
- 約200人の聴衆が集まった。

和智 正忠氏

冨田 勲氏

梯 郁太郎氏

2001年5月 General MIDI Lite 規格が正式に発効した

- AMEI策定の携帯電話着信メロディ用「General MIDI Lite」規格の記者発表会と事業者説明会が、5月30日大手町サンケイプラザにて開催された。

GENERAL MIDI L

プレス発表

事業者説明会

2001年6月

「著作権等管理事業法」の説明会を文化庁著作権課　川瀬審議官を招き　航空会館にて開催

・従来の仲介業務法に代わって2001年10月より施行される著作権等管理事業法についての説明会を開催、50余名の会員が参加した。

2001年11月

AMEI標準MIDI電子透かし「MIDIsign」を埋め込むISMC規格の運用が始まる

・MIDIsignは、著作物に電子透かしを入れ、著作物情報を埋め込み、違法行為を抑止するためのしくみ。
・2003年5月現在十数社が採用、利用している。
・この電子透かし利用により、JASRACの５％減額措置の適用が認められている。

MIDIsign

2002年6月

ハードウェア委員会主催で事業説明会を開催

・最近の電気用品安全規格、環境問題に関する、法律及び世界の動き等について説明会を開催、30余社の参加を得た。

事業説明会風景

2003年5月

MIDI規格誕生20年記念 パーテイ開催

・200名を超える過去、現在、未来に渡りMIDIに関係する方々による記念パーティーが5月13日に開催された。（写真右）

2003年7月

MIDI規格誕生20年記念　MIDIシンポジューム　開催 “デジタルエンターティメントビジネスの未来を拓く”

・第1部 「MIDI、スタンダード化のもたらしたもの」
梯郁太郎氏[ローランド（株）]
・第2部 「MIDI、次世代に向けて」
“楽器、シンセサイザー分野での現状”
青木栄一郎氏[ヤマハ（株）]
“玩具市場におけるMIDIの役割”
中荒井浩氏[（株）バンダイ]
“カーライフと音楽、そしてナビライフ”
三好忠広氏［パイオニア（株）］
・第3部「MIDI、メディアアートでの展開」
岩井俊雄氏（メディアアーティスト）

梯郁太郎氏

岩井俊雄氏

「MIDI規格の歴史」（抜粋）

1983-1989

1983 MIDI Standard 1.0

1987 MMA-0001 MIDI Time Code (MTC)
MMA-0003 Sample Dump Standard

1990-1999

1991 RP-001 Standard MIDI Files (SMF)
RP-002 MIDI Show Control (MSC)
RP-003 General MIDI Level 1 (GM)

1992 RP-013 MIDI Machine Control (MMC)

1997 RP-016 DownloadableSounds(DLS) Level 1
RP-017 SMF Lyric Meta Event Definition

1999 RP-024 General MIDI Level 2 (GM2)
RP-026 SMF Language and Display extensions

2000-2003

2001 RP-025 Downloadable Sounds Level 2.1
RP-027 MIDI Media Adaptation Layer for IEEE1394
RP-033 General MIDI Lite

2002 RP-034 Scalable Polyphony MIDI (SP-MIDI)

注）MMA-0000; MMAから提案されてAMEIとの間で合意された追加規格。
RP-000； AMEIとMMAとで合意されたRecommended Practice(推奨実施例)

AMEI NEWS　MIDI規格誕生20周年記念特別号

AMEI NEWS　MIDI規格誕生20周年記念特別号
2003年7月18日発行
発行：社団法人音楽電子事業協会
〒101-0061東京都千代田区三崎町2-16-9イトービル4階
TEL 03-5226-8550 FAX 03-5226-8549
発行人：中田 健
編集人：福田 誠（広報委員会）
編集協力：株式会社 博秀工芸
ホームページアドレスhttp://www.amei.or.jp/